

北九州市立学校 1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実によって、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

- ・ 児童生徒が自ら学習課題を設定し、学習過程や学習形態を自分で選択・決定しながら、課題解決に取り組んでいく姿。
- ・ ICT環境によって、児童生徒が学んでいることを互いに参照し、児童生徒同士で俯瞰的に見合ったり、助け合ったりする姿。
- ・ 教師がクラウド上で児童生徒の学習状況を把握し、児童生徒の学びを見取ることによって、児童生徒が自らの学びを調整している姿。

2 GIGA第1期の総括

【成果】

- ・ 児童生徒が1人1台端末を用いて情報を検索し、収集・整理する学習場面が多くなった。
- ・ 児童生徒が各種アプリを活用して、自分の考えをまとめて発表する学習場面が多くなった。
- ・ 児童生徒がデジタル教材等を活用して、1人1人の学習状況に応じた個別学習に取り組むことができるようになった。

【課題】

- ・ 教師が授業中に児童生徒1人1人の反応を把握するなど、双方向型の一斉授業が十分に実施できていない。
- ・ 児童生徒が同時に別々の内容を学習したり、個々の学習履歴を記録したりするなど、1人1人の教育的ニーズや学習状況に応じた個別学習が十分に実施できていない。
- ・ 児童生徒に1人1人の考えをお互いにリアルタイムで共有させるなど、多様な意見に即時に触れることができる授業が十分に実施できていない。

【解決策】

- ・ 教員の研修機会の一層の充実を図る。教師が令和答申について理解を深めると同時に、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善に取り組むことができるようにする。

3 1人1台端末の利活用方策

- ・ 1人1台端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末を引き続き維持する。
- ・ 教師は、多様な子どもたちを包摂する実践が進め、多様な教材の活用や思考過程の可視化などにより、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進める。
- ・ 端末は教師の指導のツールとしての側面だけではなく、学びやすさの提供や合理的配慮の基盤であることなど、学習者のためのツールという側面にも十分に意識をして、課題に向き合いつつ積極的な活用を推進する。
- ・ 児童生徒同士がやりとりをする場面や、自分の理解度や進度に合わせて課題に取り組む場面等における端末活用を充実させる。
- ・ 不登校児童生徒への学びの保障について、さらなる内容の充実を図っていく。